

2024(令和6年度)海陽町分館巡回人権学習報告について

海陽町人権教育協議会

1. はじめに

本年度も10月の約1ヶ月間、町内30分館で分館巡回人権学習を開催したところ、お忙しい中にもかかわらず、たくさんの方々にご参加いただき、誠にありがとうございます。できるだけ多くの方々に様々な人権問題について知っていただき、考えていただく機会になればと実施させていただいております。そして、海陽町のみなさん一人一人の人権が尊重される町として、つながりのある安心して生活できる居心地の良い町・コミュニティづくりにつながればと願っています。この分館人権学習に参加されたみなさまからいただいたアンケートを基に研修会の報告をさせていただきます。

2. 分館人権学習について

- (1) 期間 令和6年10月3日(木)～10月30日(水)
- (2) 場所 各分館30分館(海南地区26, 海部2, 穴喰2)
- (3) 時間 午後7時30分～8:45分頃
- (4) 研修内容 ①「子ども基本法」について
②「児童虐待」について
③子どもに人権をテーマにしたDVD『夕焼け』視聴
④意見交換会等
- (5) 参加者 ・地域の方々 281名 ・推進員研修90名

3. 研修テーマと設定理由

「子どもの人権」 ～ ケアラー：だれもが人権尊重される社会を ～

1989年に国連総会で子どもの権利条約が採択されてから30年以上が経過しています。日本でも、こども家庭庁の発足に合わせて子どもの権利を主体とした法律「子ども基本法」が2023年に施行され、全ての子どもが自立した個人として権利を守られ、平等に幸せな生活が送れるようにと考えた「子ども施策」を総合的に進めるために制定されました。この基本法では「子どもの定義」を「心と身体の発達の過程にある人」としており、一定の年齢による上限を設けず、子どもの成長や子育て支援はもちろん、教育や雇用、結婚など、若者に関する取り組みを含むことを示しています。

さて、子どもの人権問題として、世界各地で勃発している戦争・紛争等により命の危険にさらされ犠牲となっている多くの子どもやストリートチルドレン、医療問題、子どもの労働、教育・就学問題、難民問題など厳しい環境下で、命と隣り合わせで生きる子ども。また、情報ツールの進化にともない心ない誹謗中傷等による陰湿ないじめ問題や性暴力被害、さらに、子どもへの虐待被害等、将来に希望が持てず、安心・安全に生活できる居場所を求めている子どもの人権問題が深刻な社会問題となっています。

今回の研修テーマである、ケアラー(ヤングケアラー)についてもその一つで、令和2年度厚生労働省の実態調査によると、中学2年生の5.7%が、高校2年生の4.1%がヤングケアラーであることが判明しました。世話をする対象は、兄弟姉妹が一番多く、幼い弟妹の見守りや家事を行っています。ヤングケアラーの多くは、誰かに相談する機会がないため、実態が表面化しづらく、支援の手が届きにくい現状があります。ヤングケアラーとは「本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話などを日常的に行っている子ども」(厚生労働省)と定義され、ケアのほとんどがお手伝いから始まっています。お手伝いとケアラーとの違いは、ケアの役割が固定され、離れることができなくなっているかです。「遊びたい、勉強したいなど、したいことが出来る範囲で行われているか」「今日はやりたくないという選択肢が保証されているか」「保護者の見守りの中で行われているか」などです。

ヤングケアラーの背景には、少子高齢化や核家族化の進展、共働き世代の増加による地域社会からの孤立や家庭の経済状況の変化といった様々な要因があります。こうした中で、ヤングケアラーは、年齢や成長の度合いに見合わない重い責任や負担を負うため、本人の育ちや教育に影響を及ぼすことが多く問題になっています。問題解決を個人や家族だけに目を向けるのではなく、家族が抱える問題を認識し、子どもの健やかな成長を願い、だれもが互いの人権を尊重する中で、それぞれの自己実現の達成へ向け歩んでいく社会・地域コミュニティについて考える機会になればと願っています。

5. アンケートより(一部抜粋)

□子どもの人権問題等(より良い町作り)について

- 大人も子どもも相談できる場所・人が身近にいることが大切。困っている、頑張りすぎていると思ったときは、周囲が声をかけることで助けることができることをみんなに知ってもらうことが大切だと思いました。
- 家庭内のことは人には話しにくい人が多いと思うので、DVDのように周りの方がお互い気遣ったり相談できる環境作りが大切だと考えます。子どもの数が少ないので、多世代が集えるイベントや集いができれば良いと思います。
- ヤングケアラーに対する支援は現時点で不十分なところもあると思うが、ヤングケアラーの現状を人々が知ることによって支援につながるのではと思う。また、ヤングケアラーの子どもたちはもちろん、保護者への支援も大切だと改めて感じた。そして、支援のネットワークから取りこぼさないような関わりや制度づくりが必要だと思う。
- 他人の家庭のことに踏み込むのは大変なことだが、困っている人が困っていると言いやすい環境作りに私たちが頑張らなければならないと感じた。
- 「ヤングケアラー」以前はあまり耳にする言葉ではありませんでした。世の中が豊かになるにつけ(心は豊かではない)、何とも言えない問題が多くなってきて、将来ある子どもたちを巻き込むのは本当に気の毒です。他人事のようにですが、協力できる事があれば進んで参加協力したいと思います。
- 「夕焼け」のドラマは感動しました。「助けて」と話していくことは、すごく大事だと改めて思いました。うちの近所は「助けて」と言いやすいことが、今の暮らしの豊かさだと思いました。
- ヤングケアラーについての理解を深められるDVDであったように思います。「夕焼け」では誰もが起こり得る内容で、他者にSOSを出すことが大切であると改めて思いました。子どもは地域で育てるということを実感しました。都会では、そんな恵まれている周囲ばかりではないと思います。あいさつができる子ども＝町が明るくなるのではないか。あいさつにより心のつながりがなるという話題も出ました。
- ヤングケアラーだけではないですが、地域のつながりの希薄化や核家族化によって、周りに助けを求められない人たちが多くいます。少しの気遣いで、声かけで、支援を受けられることにつながります。誰もが自分らしく幸せに生きられる社会にしていけたらと思います。
- 「つながることで変えられる」という言葉はキーワードだと思った。周りのつながりが大切であると思う。つながりのあるコミュニティでありたい。良い学習の機会となりました。
- 誰もが気軽に相談でき、安心して暮らせる町づくりが進めばいいと思います。子どもだけでなく高齢者に対するケアもいろいろな方向から考えてほしいと思いました。海陽町のファミサポには、子どもたちがお世話になりとてもありがたいと思います。
- 今回の研修テーマであるヤングケアラーについてもそうですが、なかなか可視化されにくい子どもたちの問題を改善するためには、コミュニティのつながりが不可欠かと思えます。考える良い機会となりました。
- お互いを気にかけて、人とつながる、関わっていくことが問題解決の糸口、第一歩となる様子がよく分かる素晴らしい教材だと思いました。たくさんの人に見ていただき、考えてほしいと思いました。
- ヤングケアラーの子どもたち自身が、それが日常で気づいていないから声をあげない。だから、周りの大人が子どもたちの姿に関心を寄せ、見守り、寄り添ってあげることが大切だと想いました。

□DVD「夕焼け」視聴・研修会について

- ◇「夕焼け」を視聴し、それぞれの人物が様々な思いを抱えており、余裕がなければ視野が狭くなると感じました。周りの理解や少しの声かけでも救われると感じたため、大切にしていきたいと感じました。
- ◇今の時代に合った研修内容だと思います。ただ、戦後に苦労して生きた高齢者との時代の違いを理解していただけるか？理解が深められたら人権学習は進んだと思えます。
- ◇年1回でも巡回人権学習会が継続して実施していただけて助かります。毎回楽しみにしています。

- ◇このような研修会において、みなさんが一人一人の問題として捉え参加し、知識・理解を伸張して意識を持つべきだと思います。
- ◇昨年度に、子ども基本法が施行されたことで、今回子どもの人権をテーマにしたことはすごくよいと思います。DVDも子どもの人権を考えたり、ヤングケアラーについて知る良いきっかけとなりました。また、資料も現状を知れましたし、とても分かりやすかったです。これからの生活にも生かしていけたらと思います。
- ◇とにかく、こういう機会を増やすことで人権意識を高めていくことが大切。いろいろなテーマで行うことで、現在こういった人権問題が数多くあることを知ってもらう。町職員だけでなく、多くの町民に参加してもらえよう工夫が必要である。
- ◇久しぶりに人権学習会に参加しました。本当に人権について考えることは、自分を成長させることだと実感しました。「ヤングケアラー」について知識としては理解していましたが、このようなつらい立場にいるのだなと思いを巡らせました。貴重な機会をいただき、ありがとうございました。
- ◇大阪から実家に帰っていて参加させてもらいました。ヤングケアラーは大阪でも問題になっています。貧困、不登校、負の連鎖です。今日は心温まるDVDが見られて良かったです。ありがとうございました。
- ◇ヤングケアラーを題材にしたCMを拝見するが、実際DVDを視聴して周りに相談できない、しづらいつらさを感じました。
- ◇ビデオの内容は良かった。しんどいときにはしんどいと言えて、周りの人に助けてもらえるような場所があるのはいいと思う。
- ◇難しいことだなあと思った。なかなかコメントしづらい部分もあるかと思う。人によって感じ方が大きく違うような気がします。

□DVD視聴後の話し合い、意見交換より

- ☆もし気になる子がいたら、声をかけられるか？家の内情を聞くことになる。広まることもあるし、難しいと感じる。大変なのは分かるし、真実を聞きたいが、知られたくないこともあるかと思うと親しい人にしか聞きづらい。
- ☆地域の場合、昔はよく集まる機会があった。それが楽しみでもあったが、今は機会が少なくなった。(コロナ禍以降特に)家ごとに楽しむようになり、話をすることが減った。時代が変わってきているのか、葬式も家族葬が多くなりだした。
- ☆朝の挨拶など、声がかけやすい環境が大切。子どもが大きな声で挨拶する町は元気がある。
- ☆海陽町にみんなが集まれる場所はあるのか。介護者へのサポーターなど、情報をもっと広げてあげることも大切。
- ☆社会からの孤立感を無くすことが相談できる環境を作ることにもつながると思う。そのため、視聴した中にもあったような、様々な人と交流する場はとても大切な場所になってくると思った。
- ☆ヤングケアラーが増加する背景には、周りの人に話しても解決しないと思い、相談をしないことが一番の要因であると感じた。
- ☆仕事を退職すると社会の情報が手に入り幸いと思う。役場が開催してくれる学習会は良い刺激になってありがたい。海陽町にも子ども食堂のようなイベントがもっとあれば良いと思う。
- ☆昔は地域ぐるみで子育てをしていたが、近年は違う。子どもも「助けて」と言えないことも多い。地域ぐるみでコミュニティを活性化させてほしい。

6. 終わりに

アンケートを全て掲載できませんでしたが、上記掲載以外にもたくさんのご感想やご意見をいただいております。町民のみなさまからいただいた研修会後のアンケートからは、つながりを大切にしたい人権尊重の町、居心地の良いコミュニティづくりに向けての心温まる素敵なお感想をたくさんいただいております。

また、研修会の課題等についてのご意見もいただいております。課題等も多々あると思いますが、次年度開催に向けて町人協等で協議をしてみたいと存じます。

地域の方々、各分館長さま、推進員のみなさま、関係者のみなさま方のご尽力・ご協力に感謝し、お礼の言葉といたします。ありがとうございました。